

御影中部 地域に於ける

「認知症予防と支え合いのまちづくり」平成30年度

〈まとめの会〉が開催されました

当日は、御影中部の「認知症予防と支え合いのまちづくり」推進委員を始め、ご協力頂いている地域の多職種の方々、17名の参加で開催されました。

◆開会あいさつ 推進委員会 代表 山形 敬直さん

「二歩目の歩みの重たさと大切さ」

第2次3カ年計画を作るにあたり、推進委員会では反省と次期3カ年計画の議論を重ねて来ました、地域の自治会・老人会・青年会の皆さまには、今後とも協力とをぜひお願いしたいと考えています。現在、市行政も認知症問題に前進の動きがあり、わたしたちも東灘区医師会の先生方・あんしんすこやかセンター・社会福祉協議会・東灘区役所の保健課、またまちづくり課や東灘警察署にご協力をお願いし対処の仕方等、社会人として地域で生きて行くための勉強が必要と考えています。

◆基調講演 講師 医療法人 明倫会 宮地病院理事長 宮地 千尋先生

「宮地病院 認知症疾患医療センターについて」のご講演の中で、「その人らしく生きるを支える～地域で認知症の未来を拓く～」についてお話していただきました。現在、病院では入院患者の高齢化により認知症高齢者の割合が増加し、病院完結型医療から地域完結型医療へと変化する中で、施設でのケアから地域でのケアを支えることが求められてきています。これからの病院のあり方として、認知症予防教室の取り組みや、出張健康講座「ハッピー健康団」として地域の集会所に多職種の職員が出向き、予防・啓発・健康管理相談を実施したり、重度の人の在宅でのケアを支えるため、「重度認知症デイケア つくし」を設置し、地域の活性化をめざした事業をすすめています。

◆「御影中部・認知症予防と支え合いのまちづくり」活動方針

〈第2次3カ年計画をどのように取り組むか〉

- ・認知症や予防について学び、不安や偏見を超えてまちづくりの歩を進める。
- ・サポーター養成講座や居場所の活動の中で身近に交わることで、繋がりや支え合いを相互に学ぶ。
- ・居場所の活動の参加者に広く呼びかけ、まちづくりに参加するサポーターを増やし（目標200名）「サポーターシールあふれる御影中町」を大きくすすめる。
- ・サポーター養成講座で「もの忘れや介護などの相談活動」を開始する。
- ・あんしんすこやかセンターや地域の専門職の協力もいただきながら、気軽にいつでも何でも相談できる場所をつくる。
- ・サポーターの方が身近な人と一緒に参加してもらおう事などにより居場所の参加者を増やす 等。

平成31年3月3日（日）  
於：中御影区民会館



宮地病院 理事長  
宮地 千尋 先生

〈参加者の声〉

・東灘区には認知症疾患センターが2カ所もある。初期診断の後、本人と家族へは解りやすい説明が必要だと思う。その後、掛かり付け医へと返されるが、疾患センターとの間で綿密なコミュニケーションがはかられないと薬に依存する状態になってしまう。



・阪神大震災以降、神戸市ではアルコール依存症の人が増えてきている。これらの人は入院すると認知症も併発するケースが多く、重症化する前にフォローが出来たらと思う。中町周辺の飲食関係の方々にも、この見守りにひと役かっただけにととても良いと思うのですが・・・



・居場所へは、さそつてもなかなか入りにくいようで、とけ込むまでに時間がかかるようです。どうしたら皆さんに気安く居場所へ入ってもらえるか思案するのが難しいです。そして、この居場所をどう維持していくかも考えていかないとけない問題です。



・独居の人や内に籠りがちな人、コミュニケーションが必要な人が行く場所が無いというのが世間の現実ですが、中町では17カ所も居場所があり、新しく転居してきた人でも参加しやすいのが羨ましい。ぜひ、継続して欲しいと思います。

・中町では、だんじり祭りや昨年出来た音楽祭が2大イベントで、それを中心に老人会・青年会・子供の連携と結びつきが大きいとおもいます。



・中町の活動では、老人会のメンバーが増えている（他の町では減っているのに）ことに驚いています。初期診断後認知症の人が予防活動によって重症化せずに良いほうに数値が上がっていくのを確認するのは難しいが、それでも皆が理解して続けて行って欲しいとおもいます。



・昨年からはまったみかげ音楽祭は、みかげ公会堂の耐震工事終了後ホールが出来たので、バンドでもやろうと集まったのが音楽祭の始まりで、思いがけず参加希望グループが多く驚いている

